

本人患者さんへの情報公開文書

「胆道再建を伴う肝葉切除以上を要する症例における肝予備能評価法の妥当性に関する観察研究」についてのご説明

- はじめに

外科手術は胆道がんの治療において唯一根治性の期待できる治療法です。しかし、手術には大量肝切除を要し、手術後合併症として肝不全が生命を脅かす合併症として大きな問題になります。手術を計画して手術方法を選択するにあたり、術前に安全に切除できる肝容量を推定することを目的として研究を行います。

- 研究対象；

過去 10 年間（2007 年 1 月 1 日～2016 年 12 月 31 日）に胆道再建を伴う葉切除（肝左葉切除または肝右葉切除）以上の肝切除を受けた患者さんを対象とします。

- 研究期間； 病院長承認日～平成 30 年 4 月 30 日

- 症例数； 当院 25 症例（全体 50 症例）

- 研究内容と患者負担

各患者さんの電子カルテ上のデータを収集し調査いたします。得られたデータは、下記のデータセンターに集約されて、解析されます。全てのデータに対して匿名化処理を行ないますので、被験者の方の個人情報については完全に保護されます。

研究の被験者となることを希望なさらない場合、お申し出いただければ、ただちに研究対象から除外いたしますが、既に研究結果が論文などに公表されている場合や研究データ解析が終了している場合には、解析結果からあなたに関するデータを取り除くことができず、研究参加を取りやめることができなくなります。

患者さんの日常診療以外の余分な負担や経費は生じません。

この研究にご質問のある方は、下記の連絡先までお申し出ください。

問い合わせ先

札幌市中央区南 1 条西 16 丁目

札幌医科大学附属病院 消化器・総合、乳腺・内分泌外科

TEL: 011-611-2111(内 32810)

研究責任者 永山 稔

研究協力者:北海道膵がん研究グループ

(Hokkaido Pancreatic Cancer Study Group ; HOPS)

札幌市北区北 15 条西 7 丁目 北海道大学消化器外科学 II

TEL:011-706-7714

事務局代表者:中村 透